
4 0 2 1. 積荷目録情報登録（一括）

業務コード	業務名
M F I	積荷目録情報登録（一括）

1. 業務概要

「出港前報告（AMR）」業務または「出港前報告訂正（CMR）」業務（以下、「AMR業務等」という。）で登録した情報に基づき、本船利用船会社単位（共同運航の場合は、各本船利用船会社の自社単位）に積荷目録情報を一括登録する。

本業務は、船積港単位または船卸港単位のいずれかで一括登録することができる。

積荷目録提出前のB/L情報の追加も本業務で行う。

なお、本業務は「積荷目録提出（DMF）」業務が行われるまで行うことができる。

入力された船舶情報*1および船積港コード、船積港枝番と合致する内容が登録されているB/Lを対象に処理を行う。

本業務では、処理対象のB/Lを1B/Lごとに分割し、内部処理を行う。内部処理では、積荷目録情報の登録を行う。

（*1）船舶情報とは、以下の5項目を指す（以下、同様）。

- ①船舶コード
- ②航海番号
- ③船会社コード
- ④船卸港コード
- ⑤船卸港枝番

2. 入力者

船会社、船舶代理店

3. 制限事項

- ①1B/Lで登録可能なコンテナ番号は最大200件とする。
- ②1コンテナで登録可能なB/L番号は最大100件とする。
- ③1船舶情報（船会社コードを除く）に対して登録可能な利用船会社数は、最大20件とする。
- ④1船舶情報（船会社コードを除く）に対して登録可能なコンテナオペレーション会社数は、最大5件とする。
- ⑤1船舶情報（船会社コードを除く）に対して登録可能なB/L番号及びコンテナ番号は、合計で最大9999件とする。

4. 入力条件

（1）MFI業務の場合

（A）入力者チェック

- ①システムに登録されている利用者であること。
- ②船舶代理店の場合は、入力された船卸港において本船利用船会社との受委託関係がシステムに登録されていること。

（B）入力項目チェック

（a）単項目チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

（b）項目間関連チェック

「入力項目表」及び「オンライン業務共通設計書」参照。

（C）船舶DBチェック

入力された船舶コードに対する「船舶基本情報登録（VBX）」業務または「船舶基本情報等事前登録（WBX）」業務が行われていること。

(D) 積荷目録一括登録DBチェック

入力された船舶情報に対して、本業務による内部処理中でないこと。

(E) 積荷目録情報CY一括訂正管理DBチェック

入力された船舶情報に対して、「積荷目録情報CY一括訂正（CMC）」業務による内部処理中でないこと。

(F) 出港前報告情報DBチェック

抽出対象となるB/Lが存在すること。

(2) 内部処理の場合

(A) 出港前報告情報DBチェック

抽出したB/Lに対して以下のチェックを行う。

- ①コンテナオペレーション会社に入力がない場合は、コンテナオペレーション会社が登録されていること。
- ②コンテナオペレーション会社に「99999」が入力された場合は、包括保税運送を行う旨の登録がされていないこと。
- ③コンテナオペレーション会社に「99999」が入力された場合は、運送期間開始予定日が登録されていないこと。

(B) 積荷目録管理DBチェック

(a) 船積港単位の場合

処理対象B/Lの出港前報告情報DBに登録されている船舶情報に係る積荷目録管理DBが存在する場合は、当該船卸港の積荷目録情報についてDMF業務が行われていないこと。

(b) 船卸港単位の場合

入力された船舶情報に係る積荷目録管理DBが存在する場合は、当該船卸港の積荷目録情報についてDMF業務が行われていないこと。

(C) 貨物情報DBチェック

処理対象B/Lに対する貨物情報DBが存在する場合は、以下のチェックを行う。

- ①予備申告で作成した貨物情報DBであるか、または「ハウスB/L貨物情報登録（NVC01）」業務で作成され、混載親の旨が登録された貨物情報DBであること。
- ②出港前報告情報DBの船舶情報に係る積荷目録情報が登録されていないこと。
- ③システム外搬入確認された貨物でないこと。
- ④到着即時輸入申告扱いまたは貨物到着前輸入申告扱いの予備申告の登録がされている場合は、本申告起動前であること。

(D) コンテナ情報DBチェック

処理対象B/Lに関連付けられているコンテナ番号に対するコンテナ情報DBが存在する場合は、以下のチェックを行う。

- ①コンテナに登録可能なB/L件数を超えないこと。
- ②登録済のコンテナ情報DBの船卸港と、出港前報告情報DBの船卸港が同一であること。
- ③輸出コンテナとして登録されていた場合は、最新更新年月日から一定期間経過していること。

(E) 包括保税運送DBチェック

包括保税運送を行う旨の登録がある場合は、以下のチェックを行う。

- ①出港前報告情報DBに登録されている包括保税運送承認番号に対する包括保税運送DBが存在すること。
- ②本業務入力者と包括保税運送DBに登録されている包括保税運送承認を受けた利用者が同一であること。
- ③内部処理が行われた時刻が運送承認期間を過ぎていないこと。

- ④出港前報告情報DBに登録されているコンテナオペレーション会社コードが「99999」以外、または入力されたコンテナオペレーション会社コードが「99999」以外の場合は、当該社が管理する保税地域と、包括保税運送承認を受けた発送地が同一であること。

5. 処理内容

(1) MFI業務の場合

(A) 入力チェック処理

前述の入力条件に合致するかチェックし、合致した場合は正常終了とし、処理結果コードに「00000-00000-00000」を設定の上、以降の処理を行う。

合致しなかった場合はエラーとし、処理結果コードに「00000-00000-00000」以外のコードを設定の上、処理結果通知の出力を行う。(エラー内容については「処理結果コード一覧」を参照。)

(B) 処理対象B/L抽出処理

以下の条件をすべて満たすB/Lを抽出する。

- ①入力された船舶情報および船積港コード、船積港枝番が登録されている。
- ②船卸港コードに国内港が登録されている。
- ③コンテナ番号に対して、荷渡形態コード、バンニング形態コード及びコンテナ条約適用識別が登録されている。
- ④「出港前報告B/L関連付け(BLL)」業務により変更前B/Lである旨が登録されていない。
ただし、同時に変更後B/Lである旨が登録されている場合を除く。

(C) 積荷目録一括登録DB処理

内部処理を実施している旨を登録する。

(D) 出力情報出力処理

後述の出力情報出力処理を行う。出力項目については「出力項目表」を参照。

(E) 内部処理起動処理

処理対象のB/Lを1B/Lごとに分割し、内部処理を行う。

(F) 注意喚起メッセージ出力処理

内部処理を実施している旨を注意喚起メッセージとして処理結果通知に併せて出力する。

(2) 内部処理の場合

処理対象B/Lに対して、以下の処理を行う。

(A) 入力チェック処理

前述の入力条件に合致するかチェックし、合致した場合に、以降の処理を行う。

合致しなかった場合はエラーとし、処理結果コードに「00000-00000-00000」以外のコードを設定の上、積荷目録情報登録結果一覧情報出力処理を行う。(エラー内容については「処理結果コード一覧」を参照。)

(B) 出港前報告情報DB処理

本業務を行った旨を登録する。

(C) 仮陸揚届出番号の払出し処理

出港前報告情報DBに仮陸揚貨物の旨が登録されている場合は、仮陸揚届出番号をシステムで払い出す。

(D) 積荷目録管理DB処理

(a) 積荷目録管理DBが存在する場合

- ①出港前報告情報DBに登録されている積荷目録管理情報を登録する。
- ②船船船情報およびCY毎の船卸予定B/L件数を加算する。
- ③船船船情報およびCY毎に包括保税運送承認番号が登録されたB/L件数を加算する。

- (b) 積荷目録管理DBが存在しない場合
 - ①船船舶情報に対する積荷目録管理DBを作成する。
 - ②出港前報告情報DBに登録されている積荷目録管理情報を登録する。
 - ③船船舶情報およびCY毎の船卸予定B/L件数を加算する。
 - ④船船舶情報およびCY毎に包括保税運送承認番号が登録されたB/L件数を加算する。
- (E) 出港前報告情報不一致判定処理
 - 処理対象B/Lが以下の条件をすべて満たす場合に判定を行う。
 - ①コンテナ詰貨物である。
 - ②コンテナタイプコードが「PL」以外のコンテナが登録されている。
 - ③仮陸揚貨物の旨が登録されている場合は、最終仕向地コードが国外港でない。
 - ④船積港が国内港でない。
 - (a) 出港前報告未済判定
 - AMR業務等により出港前報告が行われていることを判定する。
 - (b) 出港日時報告未済判定
 - 「出港日時報告（ATD）」業務により出港日時報告が行われていることを判定する。
- (F) 貨物情報DB処理
 - (a) 共通処理
 - <A>貨物情報DBが存在する場合
 - (ア) 出港前報告情報DBに登録されている貨物情報を登録する。
 - (イ) コンテナオペレーション会社に入力がある場合は、入力されたコンテナオペレーション会社を登録する。
 - (ウ) 到着即時輸入申告扱いの予備申告の登録がされ、かつ、以下の条件をいずれか満たす場合は、予備申告（搬入確認登録時本申告自動起動）を行う旨に変更する。
 - ①出港前報告情報DBに登録されている船卸港と申告に係る船卸港が同一でない。
 - ②コンテナオペレーション会社コードに「99999」が登録されている。
 - (エ) 貨物到着前輸入申告扱いの予備申告の登録がされ、かつ、以下の条件をすべて満たす場合は、予備申告（搬入確認登録時本申告自動起動）を行う旨に変更する。
 - ①出港前報告情報DBに登録されている船卸港と申告に係る船卸港が同一でない。
 - ②輸入貨物である。
 - 貨物情報DBが存在しない場合
 - ①出港前報告情報DBに登録されているB/L番号に対する貨物情報DBを作成する。
 - ②出港前報告情報DBに登録されている貨物情報を登録する。
 - ③コンテナオペレーション会社に入力がある場合は、入力されたコンテナオペレーション会社を登録する。
 - (b) 出港前報告情報処理
 - 以下の条件をすべて満たす場合に処理を行う。
 - ①コンテナ詰貨物である。
 - ②コンテナタイプコードが「PL」以外のコンテナが入力されている。
 - ③仮陸揚貨物の旨が登録されている場合は、最終仕向地コードが国外港でない。
 - ④船積港が国内港でない。
 - <A>出港前報告情報不一致判定処理（出港前報告未済判定、出港日時報告未済判定）の結果を登録する。
 - ATD業務が行われている場合は、出港前報告情報DBに登録されている出港日時（ATD業務で入力された日時）を登録する。
- (G) コンテナ情報DB処理

処理対象B/Lに関連付けられているコンテナ番号に対して、以下の処理を行う。

- ①コンテナ番号に対するコンテナ情報DBが存在しない場合は、コンテナ情報DBを作成する。
- ②出港前報告情報DBに登録されているB/L番号を登録する。
- ③B/L件数を加算する。
- ④出港前報告情報DBに登録されているコンテナ情報を登録する。
- ⑤卸コンテナ自動抽出対象外識別に「A」が登録されている場合は、卸コンテナ情報登録処理において自動抽出しない。
- ⑥コンテナオペレーション会社に入力がある場合は、入力されたコンテナオペレーション会社を登録する。

(H) 積荷目録一括登録DB処理

処理対象B/Lに対して、以下の処理を行う。

- ①処理結果を登録する。
- ②全てのB/Lに対して内部処理が完了した場合、内部処理が完了した旨を登録する。

(I) 出力情報出力処理

後述の出力情報出力処理を行う。出力項目については「出力項目表」を参照。

6. 出力情報

(1) MFI業務の場合

情報名	出力条件	出力先
処理結果通知	なし	入力者

(2) 内部処理の場合

情報名	出力条件	出力先
到着即時申告予定コンテナ情報	以下の条件をすべて満たすとき、出力する (1) 当該貨物に到着即時輸入申告扱いの予備申告の登録がされている (2) コンテナオペレーション会社コードに「99999」以外が登録されている	CY
積荷目録情報登録結果一覧情報	全てのB/Lに対して内部処理が完了した場合に出力	入力者

7. 特記事項

(1) 「積荷目録情報登録(MFR)業務」等のB/Lについて

本業務に先立ち、MFR業務で登録済みのB/Lも内部処理の起動を行うが、既にMFR業務の登録が行われているため、エラーとなる。

(2) 積荷目録情報登録結果一覧情報について

- ①積荷目録情報登録結果一覧情報1件に出力可能なB/Lは200件とする。
- ②積荷目録情報登録結果一覧情報に出力するB/Lが200件を超える場合は、積荷目録情報登録結果一覧情報を複数件出力する。

(3) 船積港コードのバスケットコードについての留意点

MFI業務においてはAMR業務等と異なり、システムに登録されていない船積港コードを入力した場合は、バスケットコード変換（入力された国連LOCODEの3桁目から3文字分を「ZZZ」に変換）せず、エラーとする。そのため、AMR業務等で船積港コードにバスケットコードを入力した場合、またはバスケットコード変換が発生した場合は、船積港コードにバスケットコードを入力して、MFI業務を実施する必要がある。

なお、AMR業務等でバスケットコード変換された船積港コードは、元々入力されていたコードが異なる場合であっても、システム上すべて同じ船積港として処理されるため、注意すること。